

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大和大学社会学部棟建設工事	階数	地上4階地下1階
建設地	大阪府吹田市片山町	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,600 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年3月6日
敷地面積	56,315 m ²	作成者	塘田研仁
建築面積	2,414 m ²	確認日	2020年3月6日
延床面積	8,009 m ²	確認者	田中貴久

本図を右クリックし、「図の変更」を選択していただくことで、外観図等を貼り付けることができます。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・将来の学部変更、教室間取り変更に対応可能なように、建築建具、衛生系統、空調「ニング」を計画。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・T-2仕様以上の7段サッシを採用し、音環境に配慮。 ・建築全体を禁煙とします。	・学部変更の可能性に配慮し、改修しやすい仕上げを選定。 ・基準階高4.35m、廊下幅3.0mとし空間のゆとりを十分に設けた。	・各所を十分に緑化し、敷地内環境の向上に配慮。 ・オープンスペースを随所に計画し、イベント時や災害時に寄与。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
	・非構造部材におけるリサイクル材の使用(岩綿吸音板を天井に使用など)。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0001

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	大和大学社会学部棟建設工事						
	建設地	大阪府吹田市片山町						
	用途/区分	学校(大学等)						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						3	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.3	3	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.2	3	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							